令和５年度第３回名取市協働事業審査会会議録

１ 日 時　　令和６年２月15日（木）13時30分～17時00分
２ 場 所　　議会棟3階 第1・2委員会室
３ 出席者　　秋月委員長、林委員、中島委員、小畑委員、齋藤委員
　　事務局：浅野課長、川上補佐兼係長、岩間主幹兼係長、八巻主査、浅野主事
　欠席者　　青木委員、桜井委員
４ 会議概要　下記のとおり

１　開　会　　進行：川上補佐
２　あいさつ　　秋月委員長
３　審査説明
４　議　題
（1）　令和3・4年度採択（令和5年度実施）名取市協働提案事業実施報告プレゼンテーションについて
（2）　令和3・4年度採択（令和5年度実施）名取市協働提案事業評価審査
５　その他
（1）　令和5年度実施名取市協働提案事業担い手育成型（入門コース）の報告について
（2）　令和6年度募集（令和7年度実施）名取市協働提案事業について
６　閉 会

３　審査説明

事務局：
はじめに、（1）令和3，4年度採択、令和5年度実施の協働提案事業7団体による実施報告プレゼンテーションを行います。各団体入れ替え制により行い、1団体15分程度で報告・質疑応答・準備移動する予定で進めてまいります。報告には、協働した課も同席いたします。
なお先ほどの資料確認の際に、時間割の差し替えについてご案内いたしましたが、一般社団法人ファブリハ・ネットワークの発表について諸事情により団体の出席が困難となってしまいましたので、団体より提供された資料に基づき、事務局より説明させていただきます。報告プレゼンテーションの後、休憩をはさみ、次第（2）の協働提案事業評価審査に進みます。次に、報告プレゼンテーションの審査方法について説明いたします。お手元にお配りした資料の令和5年度第3回名取市協働提案事業審査会実施要項をお開き願います。中段に記載しております、5審査方法をご覧ください。（2）の審査項目①から⑥までの6項目を評価の視点として審査をお願いいたします。採点については、（3）採点方法をご覧ください。各項目5点満点として評価をお願いいたします。次に、お手元に配布してあります、ピンクの付箋が貼ってあるファイルをご覧ください。本日、報告プレゼンテーションを行う7団体分の評価票が入っております。その評価票に団体ごとに評価の視点①から⑥までの6項目について5段階評価していただくとともに、下にあります「評価コメント」の欄にコメントやアドバイス等のご記入をお願いいたします。質疑応答の時間や団体入れ替えの時間などに評価票へご記入いただき、全てのプレゼンテーションが終わった時点で、評価票を回収させていただきます。なお、報告プレゼンテーションが終わりましたら、休憩時間を設け、その間に事務局で全体集計を行いたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

進行：
それでは、令和3・4年度採択令和5年度実施名取市協働提案事業実施報告プレゼンテーションをはじめます。秋月委員長の進行のもと進めていきたいと思います。
秋月委員長：
それではここから、次第4（1）令和3・4年度採択令和5年度実施名取市協働提案事業実施報告プレゼンテーションに入ります。報告プレゼンテーションの進行を事務局にお願いしてもよろしいでしょうか。
進行：
では、事務局で進行させていただきます。ただいまより、7団体から報告をいただきますが、報告プレゼンテーションの持ち時間は1団体15分程度で、報告を7分、質疑応答5分、準備移動3分という内容で進めてまいります。各団体入れ替え制で行います。なお、報告プレゼンテーションの終了時間1分前にベルを1回鳴らします。報告終了と、質疑応答終了の合図としてベルをそれぞれ2回鳴らします。そこで終了となります。それでは、令和3・4年度採択令和5年度実施名取市協働提案事業実施報告プレゼンテーションを始めます。

4　議　題

（1）　令和3・4年度採択（令和5年度実施）名取市協働提案事業実施報告プレゼンテーションについて

<プレゼンテーション>

Ⅰ一般社団法人 ふらむ名取 （協働する課：商工観光課）

この事業は、舟運事業を活用して、舟の上から復興後の閖上を見ながら、震災の語り部をする事業でした。さらに、リーフレットを作成しました。リーフレットは、本来20ページ程度を予定としておりましたが、舟の上での見やすさから簡潔なものに変更し、このようなリーフレットになりました。実施内容としては、7月と8月に2日ずつ3コースに分けて乗船を実施しました。実施に向けてのスケジュールはこのようになっております。4、5月にリーフレットを作成し、イベント開催に向けて打合せをしました。乗船人数はこのようになっております。90名参加を見込んでおりましたが、53名の乗船となりました。8月23日は、始業式と重なっていたため、あまり集客できませんでした。乗船後のアンケートは、大人を中心に書いてもらい、結果はこのようになっております。満足度も高く、また来たいという問いには100パーセントという結果だったので、実施してよかったと感じている。活動写真ですが、乗船前は、パネルを使って説明をし、乗船の際には浮桟橋の移動をサポートしました。乗船中には、風景を見ながら説明を行い、乗船後はアンケートを記入してもらいました。今回の反省も踏まえて、今後も工夫しながら実施できればと思います。

<質疑応答>

委員：参加された方からのアンケートを一部ご紹介いただいたが、もっとこういうふうにして欲しいとか要望はありましたか。

団体：もっと閖上地区の昔の様子を具体的に話してほしい、震災前の閖上に携わった方もいるので、昭和平成あたりの閖上をできるだけ話してほしかったという要望があった。

委員：それは次に生かせそうですか。

団体：パンフレットなどでも十分対応できると思います。

委員：この時期に暑い中という事情もあったと思いますが、90名に対して53名ということをどのように

考えていますか。

団体：小学生4年生以上の親子と限定してしまったこと、8月23日の始業式に日程を組んでしまったことなどが原因と考えられます。また、コロナでキャンセルとなってしまった方もおり、参加者が減ってしまいました。

協働する課：協働する課からの立場からということで、舟運事業はルート（航路）が決まってしまっていて、内容も同じようなものになりがちで、いわゆるちょっとマンネリ化しつつある要素もある中で、今回の語り部企画といったところでコラボをして、既存の事業に付加価値を付与することができたかなと考えております。大変暑い中ご協力をいただいて、誘客にもつながったということで大変満足しているところです。

Ⅱゆりりん愛護会（協働する課：クリーン対策課）

閖上海岸の生き物たちを学ぼう！というテーマで、春～夏にかけて4回にわたって生きものの調査をしました。5月に海浜植物調査、6月には海藻調査をしました。海藻の調査は、今まであまり実施したことはありませんでしたが、今回東北大学の先生方に協力いただいて、海藻の調査を実施しました。そして、7月と8月の2回に分け、夏休みを利用して、宮城県の絶滅危惧種に指定されているスナガニの調査並びに採取を実施しました。イベントは、2部構成とし、第1部は名取トレイルセンターで座学を行い、第2部は海岸で海浜植物や生きものの調査をしました。震災によって、市民の皆さんがなかなか浜に足が向かないということがあったので、当団体としては、元気になった浜の様子を見てほしいという思いがあり、今回市民の皆さんに海岸のことを知ってもらうと同時に、浜に対する親しみを持ってほしいなという願いを込めて事業を実施しました。4回実施した観察会の内容ですが、5月の海浜植物鑑賞会は、従来から閖上浜にあるハマエンドウやハマヒルガオ、それから群生が増えたことで県の希少種から外れたハマボウフウが、ちょうど6月のこの時期に花が開くのに合わせて実施しました。この時は、子どもを含めた23名の市民の方とスタッフなど総勢35名で実施しました。参加者の中に、植物に詳しい方がおり、フォローをいただきました。参加者の皆さんからは、植物の花が咲いているところを見ることができ、好評をいただきました。6月の海藻鑑賞会では、ホンダワラやコンブなどの海藻に甲虫類が潜んでいることを学びました。7月と8月は、2回にわたってスナガニの鑑賞会を行いました。事業成果としては、市民の皆さんに浜に出てもらい、いろいろな生きもののことを学び、親しんでもらうことについては、成果があったと感じています。こちらは、カニの調査の時の写真になりますが、この親子はすっかりカニが気に入り、2回目も参加してくれました。これからの展望・活動については、今回残された課題の解決に努め、海岸での生きもの観察会を今後も継続してやっていきたいと思います。大学・行政・企業・団体などと連携しながらことが実施できればと思います。

<質疑応答>

委員：最後に大学や行政と更に連携したいと話されていましたが、それにつながるきっかけづくりは進められていますか。

団体　：そこまでは進められておりません。ただ、これまでの付き合いがある東北大学や他団体との連携は、そこまで難しくなく、運べると思っています。

委員：今回子ども主体に自然の大切さを学んでもらいましたが、今の子どもたちと自然の関係について、どのように感じましたか。

団体：大人より順応性があり、ノリがいい印象を強く受けました。子どものためにも、これからは植物や秋には希少種のバッタなど面白い生き物たちのことを紹介し、春夏に限らず、秋も観察会を展開していきたいと考えています。

委員：どんな年齢層の参加者が多かったのか。また、名取トレイルセンターから海岸までの移動手段はどのように行われたか教えてください。

団体：参加者は、大人については、30 代ないし 40 代の小さなお子さんを持つ親世代と70代くらいの高齢でした。7月8月は、親子イベントでしたので、対象年齢の親子でした。移動については、漁港の向かいの広い空き地があり、県の漁港管理班に申し入れをして、駐車場として利用しました。

協働する課：普段あまり浜に出ないお子さんたちが多かったということで、海を見てはしゃいで植物やカニを見つけると同時に、ビニールのごみや燃えカスがあることに気づき、自然体験を機にいろいろなところに目を向けてもらえたのかなと感じております。活動が将来的にも繋がっていければよいと思っております。

Ⅲ和ごころコミュニケーションズ（協働する課：保健センター）

私たちは保健センターの方と一緒に「健康診査と学びのコラボ事業～1gでも減塩しませんか～」ということで、2年連続で市民の皆さんに減塩をアプローチする事業を行いました。実施時期は、7月18日から7月23日、活動時間は7時30分から12時30分になります。1回あたりのアプローチの所要時間20分で、1日あたりの実施回数は5～7回行い、6 日間で合計 2,134 人の方に参加していただきました。場所は、名取市民体育館になります。内容としては、①待ち時間に減塩の仕方について具体的内容や減塩料理の動画を流しました。②ストレッチは、去年と同じ曲に合わせ、体操の説明や動作を見やすく、わかりやすく改善して実施しました。③リーフレットは、こちらになります。こちらを来場者の方にお渡しして、減塩について応用的な内容を増やし、見やすく工夫し、待ち時間に活用していただきました。④パネルは、実際の野菜を撮影して作成しました。また、今年度は、スマートミール弁当などの新しい情報もパネルで提供しました。⑤アンケートは、去年同様に出口でアンケートをシールで貼っていただき、ニーズ調査を実施しました。⑥見て触って学べる体験ブースは、今年度新しく実施しました。おでんの材料を選んで実際の塩分摂取量を目で見たり、サンプル野菜で 350 グラムの野菜の量を見て確認してもらう体験してもらいました。事業の成果としては、食育動画では、市民の健診の待ち時間を活用し、減塩の仕方についての具体的内容、減塩料理動画を盛り込み、去年よりブラッシュアップした内容を伝えることができました。ストレッチでは、熱中症対策として扇風機を増やし、新たに水分補給の声掛けも追加し、市民の方の安全に配慮しました。また、去年と同じ曲に合わせ、体操の説明や動作を見やすくわかりやすく改善して実施したことで、多くの市民の方に積極的に参加してもらうことができました。リーフレットは、減塩についての応用的な内容を増やし、見やすく工夫し、待ち時間に活用していただきました。パネルに関しては、実際の野菜を写真にすることでイメージができるよう工夫したり、スマートミール弁当などの新しい情報も提供し、市民の方に興味を持っていただくことができました。来場者のアンケートから、今回の活動の必要性を知ることができました。アンケート結果の詳細データにつきましては、資料を配布していますので、ぜひご覧ください。見てさわって学べる体験ブースのおでんについては、具材で実際の塩分摂取量が学べ、レシピが好評でした。レシピを資料として配布していますので、ご覧くださ

い。

実施において工夫した点は、ストレッチ動画では、去年よりビデオ内容を見やすくわかりやすく表示するよう工夫したことで市民の方々に積極的に参加いただけるようアプローチしました。見て触って学べる体験ブースでは、実際に体験できるようにおでんの材料を手作りで作成しました。パネルは、実物の野菜を写真で撮り、見やすくしました。熱中症対策の声掛けを行いました。また、保健センターの当日担当の方と、毎回最初と終わりに打合せを行ったことで、迅速な改善ができました。改善すべき点ですが、夏場の実施のため、減塩だけではなく適塩などの言葉を用いながら熱中症対策に配慮した内容の補充が必要であること、季節や各自の体調、運動量に配慮した減塩の仕方や他の健康アドバイスの取り組みも必要である、ということです。また、資料内容について変更が多かったので、保健センターとの打ち合わせを多く実施することが必要であることです。今後の団体の展望・活動につきましては、現在当団体が実施している子ども食堂を継続しながら、イベントを含む体験型の居場所づくりを増やしていくことやスタッフの増員と活動場所、事務所場所を考慮しながら2年以内の法人化を目指しています。また地域や各行政機関との連携を目指しています。

<質疑応答>

委員：アンケートを見ると、特に取り組むことは考えていない方もいると思いますが、そういう方に向けて新たな作戦は考えていらっしゃいますか。「このままではやばいぞ!」と響くアイデアはないでしょうか。

団体：以前から取り組まれている方や体重などの健康状態に気を付けている方は、定期的に健診も受けている方になると思います。健康に興味のある方には、料理のレシピや地域の方が実践している健康ストレッチなどをお知らせしていきたいと思いました。また、改善するつもりがない方には、このままの生活を続けると、こんな風になってしまうという生々しい写真を保健センターからいただいております。それによって、三大疾病になりやすくなるという話を盛り込んでおりますが、おっしゃる通りもっと危機感を感じられるように伝え方を改善した方がいいと思いました。

委員：お弁当はいくらで販売していますか。

協働する課：イトーチェーンにて 700 円弱で販売しております。

委員：収益はあるのですか。

協働する課：こちらのお弁当については団体で作ったものではなく、名取市で減塩弁当のコンテストをして、名取北高の生徒が考えて、優秀賞を受賞したお弁当です。それをイトーチェーンで商品化していただき販売しているというところでありまして、収益は入ってこないです。

委員：1日あたりのスタッフは、何人くらい出動していたのでしょうか。

団体：一番少ないときで5名でしたが、大体 8 名体制で行いました。

協働する課：保健センターでは各公民館を回り総合健診を行っております。その際、職員が受付前に高血圧の話や健康教育の話をしております。市民体育館に関しましては、団体が常時いてくれたことで、職員の負担も減りました。また、職員が健康教育すると、1回か2回しかできませんが、団体で動画を流したり、ストレッチをしていただき、市民の皆様からも好評いただいたところです。今後も団体と良好な関係でいたいと思っております。

Ⅳ特定非営利活動法人 仙台傾聴の会 （協働する課：生涯学習課）

名取市民を対象に、自己能力を高めるためのスキルアップとして、コミュニケーションスキルの１つである「傾聴」を学ぶ講座を開催いたしました。これまで協働提案事業で、傾聴の入門編や傾聴ボランティア養成講座を目的に令和3年度に実施してきましたが、事業アンケートでは仕事に役立てたい、コミュニケーション能力を高めたいという意見が多かったことから、当事業では一人ひとりが自己啓発の一環としてコミュケーション能力を高めるために傾聴のスキルを学び、日常生活とか仕事などに役立つよう実施しました。傾聴は、聞き手が指示や注意をするのではなくて、話し手自らの意思で行動が変わると言われています。人を指導する立場の方、身近な人との人間関係に困っている方などにぴったりのコミュニケーションスキルです。多様な生涯学習がある中で、コミュニケーションスキルの1つである傾聴は、自己能力の向上とともに、職場や家庭等様々なところで活用でき、気軽に取り組むことができるので、生涯学習のはじめの一歩として市民に取り組んでいただきたいと考え実施しました。実施内容としましては、講義が傾聴の基礎等、傾聴の意義、傾聴のスキル、交流分析など、実技として２人組、3人組でのロールプレイング、コミュニケーションエクササイズ、グループワークを実施してまいりました。時期としましては、8/27、9/3、9/10の3日間、全１2時間の連続講座ということで、参加しやすいように土日に設定しております。時間としましては、10 時から 15 時まで、昼休みを1時間とっています。場所としましては、名取市市民活動支援センター会議室の大をお借りしました。3 日間それぞれにアンケートを実施していますが、年代としては 50 代６名、60 代５名、70 代５名ということで、アンケートのコメントを抜粋してきましたので、ご紹介させていただきます。傾聴のコツがわかりやすく、講座の資料実技もわかりやすかった。気持ちよく話せる体験が良かった。聴くと聞くの違いがあって、普段の生活を振り返ることができた。人は聴いてもらいたいと感じていることが分かった。話す、聴くの体験がいい。心理学の専門用語ではなく、実際に使える形でわかりやすかった。3人組のロールプレイングやスタッフによるデモンストレーションも役に立った。交流分析の良いストロークは、良い人間関係ができると感じた。傾聴は自分自身を顧みることだと再認識した。楽しく学ぶことができて、今後の生活に活かしていきたい。スタッフ講師の対応が良かった。以上のコメントをいただきました。その後、受講3か月後のアンケート調査を実施し、資料につけています。

<質疑応答>

委員：集客について、もう少し若い世代も含め、たくさんの人に参加してもらうべきかと感じましたが、次の工夫は考えてらっしゃいますか。

団体：今回、チラシの作り方に問題があったと反省しております。スキルアップ講座に3日間費やすのかと思う部分もあったと思います。3日間で12時間というコースをもっと短縮してできたらいいと感じました。やはりスキルアップと言ってしまうと、初めての人は躊躇してしまうことをチラシ作成の段階で、もう少し時間をかけて練り直すべきだったと思っているところです。

委員：今回講師を務められた方はどういった方ですか。

団体：仙台傾聴の会の会員です。

委員：資格を持った方ですか。

団体：はい。認定心理士の資格のある方です。

委員：今回受講された方が、その後傾聴の活動に活かす活動につながった方はいますか。

団体：はい。6名の方が会に入会しました。

協働された課：協働してよかったと思えた点があります。当課で組織している中に、家庭教育支援チー

ム tocotoco（トコトコ）という公民館でのサロンやみちのく湖畔公園での移動交流サロンなどの活動をしている組織があり、主に子育て中のお母さん、お父さんに対して、子育て中の悩みにアドバイスしたり、傾聴しています。その中で、メンバーから傾聴のスキルを学びたいとささやかれておりました。今回協働提案事業を受けて、協働する中で、団体に傾聴のスキルを学ぶ機会を与えていただくことになりました。協働する課としては、実施に役立つ傾聴のコツを学べたという点で、非常にありがたかったと考えております。また、実際に事業を拝見させていただいて、非常に組織立てして活動されている団体だと感じました。事前の受付や当日の受付、設営、講座の内容もよかったと思います。組織立てて運営していることにつきましては、我々としても安心して拝見することができました。非常に素晴らしかったと思います。ありがとうございました。

Ｖ特定非営利活動法人地星社（協働する課：市民協働課）

なとり協働まちづくりワークショップ事業～なとり協働まちづくり実験室～ということで事業を実施いたしました。今回の事業で解決したい課題につきましては、多様な人や組織の協働する場や機会が必要ではないかということで、1対1の協働はどんどん増えてきたと思いますが、様々な主体の参加による協働を実施しようと企画しました。事業の概要は、協働まちづくりのワークショップを5回実施すること、それによってアクションプランを作り発表会を実施して、最後にフォローアップとして参加者向けの研修をすることで、地域づくりに関わる人材を増やし多様な主体との協働について繋げていくものです。5回のワークショップの進め方は、最初は参加者同士、仲間を知ろう、2回目はこういう名取にしていきたいという意見を出し合う、3 回目は名取にどんな地域資源があるか、4 回目にアクションプラン作り、5 回でブラッシュアップをするという方法でした。参加者は、多様な方々が参加されました。20 代～70 代まで、大学生やお寺の副住職、公務員、会社員という現役世代の方や NPO で働いている方、すでに会社を退職されている方など様々な方が参加されました。大学生の方でこの事業に参加して、名取市の職員に採用された方もらっしゃいました。協働提案事業とは別事業になりますが、この事業を実施する前に、団体の事業としてファシリテーター講座を実施し、その講座に参加された 8 名がこのワークショップのファシリテーターの協力ということで参加していただきました。こちらは実験室の様子です。2回目は、こんな名取にしたいということで、理想の地域の姿を出し合って発表しました。4回目から具体的なアクションプランに進み、模造紙を広げ具体的なアイデアを形にしていきました。5回目は、4回目で作った大まかな計画をより具体的に形にしました。最後に発表会を行い、市職員、市内企業の方など多くの方に参加していただき、コメントをいただきました。ワークショップが終わり 1 月にフォローアップ講座として、アクションプランの協力を得るための企画書作成について研修を実施しました。具体的に5つのアクションプランができたというところです。

・焚火と対話のイベント
・なとりの魅力を伝えるまち歩き
・空き家活用による多世代交流の場づくり
・体験と食を通して農業を学ぶ
・地域で活動をやりたい人がつながる場づくり

今後は、活動やアイデアを作っていく場を継続的に持てるとよいと考え、団体の自主事業と一緒にでき

るといいと思っているところです。事業の成果としては、5つのアクションプランができて、いつでも実現可能なところや世代や属性を超えた参加者同士のつながりが出来て、今後様々な協働が生まれそうなところです。また、連携や協働を促すファシリテーターを担える人材が増えたことが成果だと思います。今後の展開展望としては、アクションプラン5つできたので、実現に向かってサポートしていきたいと考えております。すでに実施が決まっているものから、少し時間をかけて具体的にしていく必要のあるものがございます。団体としては、実施に向けて伴走支援を継続的にやっていきたいと考えております。また、アクションプランの1つでもありますが、この協働まちづくりについて継続的な場づくりとして、活動をしたい人がつながる場を実施したいと思います。最後に、次年度の協働提案事業で、なとりまちづくり工房において、地域課題について調べて発表するプログラムを実施していきたいと考えております。

<質疑応答>

委員：1 回の事業で平均何人くらい活動していたのか教えてください。プログラムをするのにどのくらい人手が必要になりますか。

団体：スタッフは2名とテーブルファシリテーターとして8名おり、その中で毎回5～6名は参加していました。

協働する課：市としても市民活動支援センターなどを設置し、団体へ支援を行っていますが、個人やつながる場づくりには手が回っていないことがあり、今回団体の取り組みはまさに、そこを拾っていただき、グループづくりの支援をしていただいたところは、大分有益だったと思っております。実際に今回の活動をした方たち 5 グループのうち、2～3グループは団体になる可能性もあり、今後事業を実施していくと聞いているので、団体になった場合は、市でも支援していきたいと思っております。また、来年も協働で事業を実施すると決まっているので、一緒に取り組んでいきたいと思います。

Ⅵ演劇ユニット 石川組 （協働する課：介護長寿課）

演劇ユニット石川組は、名取市に在住していた石川裕人という劇作家の作品が大好きで残し続けたいということで、上演し続けることを目的とし立ち上げました。それ以外にも芝居の楽しさをもっとたくさんの人に知ってほしいということで、こういったワークショップを実施しています。今回の事業では、高齢者の方に向けて演劇体験のワークショップを行いました。課題としては、コロナ禍で外出する機会が少なくなってしまったお年寄りが多く、人と接する機会が減少しているという状況がありました。そういった中で昨年と一昨年に入門コースでワークショップを行い、その際高齢者限定ではありませんでしたが、高齢者の参加者が多く、とても意欲的な方が多かったのが印象的でした。そこで、高齢者を対象に今回の取り組みをすることにしました。演劇自体が人と人の関わりで作るものなので、コミュニケーションをすることが大前提としてあります。そして、動いて声を出すということが、健康づくりにもなるということで、生きがいづくりや介護予防につながるのではないかいうことで、演劇を活用した生きがいづくり事業として今回実施しました。内容は、6回の演劇体験ワークショップを実施し、成果発表会を行い、全7回の事業です。対象は、60歳以上 16 名をチラシ配布、広報なとりで募集しました。毎回ワークショップでラジオ体操、発声練習と本読みを行いました。1回目は、仲良くなるために参加者の皆さんとコミュニケーションのため遊ぶゲームや自己紹介をしました。さらに、高齢になってから演劇を始めて、実際に現在も活動している方々のお話を聞く時間を取りました。講話は、今回工夫したところであります。同じように

活動している方の話を聞くことによって、どんなふうに進めばいいのか、どんなことが待っているのか想像できたように思います。取り組んだ作品は、石川裕人が書いた、つれづれ反乱物語という作品になります。高齢者の老人ホームの話です。事業の成果ですが、参加者数は 16 名募集に対して 14 名でした。発表会は、10 月 14 日土曜日 14 時開演として名取市文化会館小ホールで行い、観客動員数は 96 名とたくさんの方に観に来ていただきました。ワークショップ参加者からは、生きがいを見つけられて楽しかった、表現することの楽しさを知ったという感想をいただきました。来場者からも一つの目的に向かってみんなで努力をするのは最高だ、もっとやってほしいという感想が多くありました。ワークショップ参加者の方からの生の声を聞いていただきたいと思ったので、終演後のアンケートの様子をご覧ください。こういう機会を得て、私たちは今後ともワークショップの活動を続けていきたいと思いました。コミュニケーションはとても必要だと思いますので、演劇の力でコミュニケーションや生きがいづくりをしていきたいと思います。

<質疑応答>

委員：いくつか質問があります。1 点目なぜ募集した人数が16名だったのか、2 点目参加された方のその後を考えていらっしゃるのか、3 点目評価シートにおいて、団体と協働する課との間で、意思の疎通が図られ、信頼関係が築けたかの問いだけ低かったが、なぜですか。。

団体：1 点目つれづれ反乱物語の台本の登場人物が 16 名で、この作品が高齢者に特化しており、高齢者が生き生きする芝居だったので、その登場人物に合わせた人数で募集をさせていただきました。2 点目本当は団体で継続的に実施していくのが大事だと思っているのですが、団体の時間や能力的に難しいというところで、参加者に市内活動団体を紹介しました。団体としては、生きがいづくりのきっかけづくりの部分を担いたいと思っています。3 点目途中経過の段階で密に連絡を取り合うことができなかったということもありました。チラシ配布など協力していただき、とても助かった部分はありましたが、ワークショップを見に来ていただく機会があったらよかったと思います。

協働する課：演劇を通した生きがいづくりということで、私どもも介護予防や生きがいづくりを事業として実施していますが、お芝居は実施していないので、私どもがノウハウを持ってない部分からのアプローチはおもしろいと思いました。団体と協働する課との連携についてですが、ワークショップのメインが9月ということで、私どもの係で行っている敬老のお祝い金や敬老事業という一番仕事のボリュームが多い時期と重なってしまいました。私の予定には、毎週必ずワークショップ、ワークショップとなってはいたのですが、見に行くことができずすみませんでした。最後の回と本番については、見させていただきました。ワークショップを実施して公演まで設定していただいたのは良かったと思っています。本人が一番興味をもって取り組める、そこを通して見つけるのが生きがいなのかなと思いました。

Ⅵファブリハ・ネットワーク（協働する課：社会福祉課）

事務局より説明

この事業は、生活不便解消モノづくり体験事業ということで行いました。事業概要としまして、主な目的は2つになります。1 つ目、日常生活に不便や不自由を感じている方へ3D プリンターを活用して、改善できるということを多くの方に知っていただく、2つ目モノづくり体験会を通し、自らが不便解消の方法を考え、作ると

いった体験をすることで障がいを抱えている当事者の方への配慮や共生へのイメージを描くきっかけをつくる、ということになります。そして、この目的を達成するために、今回の事業では3Dプリンターで自助具といわれるものを作っております。具体的には、握力が弱った人向けの自分の手に合わせたボトルオープナーやスプーンの柄の部分を持ちやすいようにするものが自助具です。障害の方で日常生活用具や補装具がありますが、これに満たない方向けのものを作る、普及する事業になっております。団体の方で考えている課題になりますが、地域住民や地域の多様な主体が参加する機会が少ないことから「社会性」が浅くなっており、誰もが能力や強みを生かしつつ「支えて」として活躍できる場の創設が十分ではないのではないかと考えているものです。実施内容ですが、全4回でモノづくり体験会を実施しております。1回ずつの単発事業になっております。対象としましては、名取市に住んでいる市民の方、親子など小学生を中心としており、あとは障がいの当事者やその家族・支援者の方も対象にしております。行った場所は、市内の公共施設4か所で、名取市民活動支援センター、増田公民館、閖上公民館、愛島公民館で実施しました。時間としましては、1回あたり2時間30分程度です。募集定員としては、各回10名です。今回作ったものは、リーチャーと言いまして、マジックハンドのような遠くのものをとる物です。先の部分を自分でデザインし、その形を3Dプリンターで作りました。また、リーフレットを作成し、モノづくり体験会に参加した方向けにお配りしました。事業成果としまして、参加状況は、4名、8名、2名、10名ということで、合計24名の方に参加していただいております。増田西公民館に関しましては、応募5名に対して参加者10名となっておりました。夏休みに実施したこともあって、親子連れが多かった印象でした。自助具という物を必要としている方がいることを学び、その自助具を実際に自分でデザインして3Dプリンターで作るという体験を通して、障がいの有無に関係なく、誰もが受け手支え手として支え合う必要があるということを学ぶ機会になったと思います。団体の展望として、市民活動として、地域の方が気軽に不便解消に携わるモノづくりができるよう今後もワークショップや体験会事業を継続していく、それから、地域の社会的処方先になり得る工房となるよう活動していき、名取市内の病院や福祉施設などへの啓発活動を行いたいと考えております。また、団体支援として、社会福祉課から社会福祉事業所の団体などに、このような活動をしている団体がいるということを周知しております。

<質疑応答>

委員：自助具が欲しい場合は、団体に頼めば作ってもらえるということですか。

事務局：そのような形になります。先ほど言ったように、福祉事業所の方に周知したところですので、障がい者の方で自助具が欲しいと相談があった時には、材料費は実費負担で考えてくださるようです。

委員：便利なものを必要な人が手にすることは大事なことだと思いますが、団体のPRの場になったと捉えてしまいます。

事務局：目的としては、不便や不自由を感じている方に向けて、自助具というものを知っていただき、手助けとなることを目的としていますので、団体のPRではありません。

委員：参加された方の中に、障がいのある方はいたのでしょうか。

事務局：いらっしゃいました。私が増田西公民館に見学に行った際、車いすで手に障がいのある方がいらっしゃいました。お母さんと一緒に参加されていました。

以下、非公開

4　議　題

(2)　令和3・4年度採択（令和5年度実施）名取市協働提案事業評価審査

5　その他

(1) 令和5年度実施名取市協働提案事業担い手育成型（入門コース）の報告について

(2) 令和6年度募集（令和7年度実施）名取市協働提案事業について

6　閉　会

令和 6年 3月18日

委員長　秋月高太郎　印